

視察Report 奈良井宿古民家群 活用プロジェクト視察

青山 瑠衣

弊社が加入する愛知住まい・まちづくりコンサルタント協議会主催の見学会に参加し、塩尻市にある中山道奈良井宿の古民家群活用プロジェクトを視察する機会を得た。

奈良井宿古民家群活用プロジェクト

二〇二〇年一月、塩尻市と竹中工務店がタッグを組み、奈良井宿古民家群活用プロジェクトをスタートさせた。「木のまちを再生する」をテーマに、かつて林業が盛んであった奈良井宿の地域課題解決に取り組んだのが、本プロジェクトである。奈良井宿は、木曽路エリアで最大の年間六十二万人の集客を誇るが、業態多様性が乏しいこと、宿が少なく滞在時間が短いこと等が要因となり、平均消費額は一人当たり九二〇円と非

常に少なかった。それに加え、過疎化や高齢化による地域の担い手不足、空き家の増加といった課題も抱えていた。公民が連携し、さまざまな主体がプロジェクトに参画し、地域との対話を重ねること三年半、複数の伝統的建造物等を改修し、宿泊施設、レストラン、バー、温浴施設、酒蔵、ギャラリー等を擁する小規模複合施設「BYAKUNARAI」が開業した。

地域の暮らしや文化を継承する

BYAKUNARAI運営チームの方にアテンドしていただきながら施設を見学した。古民家を改修した客室は、温熱環境が整備され、構造補強、防災対策が施され、快適性、安全面が確保されているが、築二百年の長い歴史がしっかりと受け継がれていることが随所に感じられた。たとえば、昔台所として利用されていた客室では、天井や壁が煤汚れによって真っ黒になっていたが、



かつて台所として使われていた部屋（黒い梁や天井は煤汚れを活かしている）

あえてそのまま残すことで、当時の暮らしのストーリーが感じられる空間となっていた。単に改修するのではなく、木曽地域やその家に蓄積された文化や暮らしを受け継いでいくために、変えるところ、残すところ、がじっくり考えられた改修がされていた。

地域の担い手として

奈良井宿の伝統的なまち並みは、住民の並々ならぬ努力によって守られてきた。それゆえに、当初は地元の反発の声も少なくなかったそうだ。運営スタッフ自身も、外から来た者が魅力あるまち並みという地域資源を利用しホテルを運営するのは、地元の長年の努力にフリーライドすることだという意識を持っていた。

開業までに、地元住民への説明会を重ね、少しずつ理解を得られつつあったが、風向きが変わったのは、施設オープン時の出来事がきっかけだったという。オープン直後、奈良井宿に土砂崩れが発生。施設を一週間休業し地元の復興に尽力した。また、回覧板でホテルスタッフの顔と名前を案内したり、地域のお祭りや草刈りなどの行事に参加したり、消防団にも加入する等、現在では、地

域の一員としてまちに溶け込んでいる。

このプロジェクトは奈良井宿に新たな動きも生み出している。施設スタッフの寮は奈良井宿の中に整備されており、働く・住むという流れが作り出された。また、地域外の若者が空き家を活用したギャラリーやショップを出店し、メイン通り以外にもお店ができる等、施設の開業が呼び水となり、さらなる地域の活力を生んでいる。

地元が守ってきた歴史・文化を継承しながら、地元根付き新たな価値をつくり、循環を巡らせていく。地域密着型のコンサルタントとして、歴史や文化を守りながら新たな価値をつくり出す取り組み姿勢を大切に業務に当たっていききたい。



住民によって守られてきた奈良井宿のまち並み